

2024年12月20日

各位

会社名 株式会社エーワン精密
代表者名 代表取締役社長 林 哲也
(コード：6156、東証スタンダード市場)
問合せ先 株式会社エーワン精密
代表者名 代表取締役社長 林 哲也

第2四半期（中間期）業績予想及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2024年12月20日開催の取締役会において、最近の業績の動向、事業環境等を踏ま、2024年8月9日に発表した2025年6月期第2四半期（中間期）及び通期業績予想を以下のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 2025年6月期第2四半期（中間期）業績予想数値の修正（2024年7月1日～2024年12月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想（A）	855	119	129	90	17.94
今回修正予想（B）	807	36	44	30	5.98
増減額（B-A）	△48	△83	△85	△60	—
増減率（％）	△5.6	△69.7	△65.9	△66.7	—
（参考）前期実績 （2024年6月期 第2四半期）	809	107	114	78	15.59

2. 2025年6月期通期業績予想数値の修正（2024年7月1日～2025年6月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	1,800	283	305	213	42.46
今回修正予想（B）	1,700	142	160	112	22.33
増減額（B－A）	△100	△141	△145	△101	—
増減率（％）	△5.6	△49.8	△47.5	△47.4	—
（参考）前期実績 （2024年6月期）	1,601	164	178	120	24.03

2. 修正の理由

当社の受注が前年同期比微減となり、一方でコスト増加要因があり利益率が大幅に減少したため、業績の修正を行うものであります。

米国は個人消費を中心に景気は好調を維持しておりますが製造業は頭打ち傾向であり、ドイツを中心に欧州の製造業、東南アジアの製造業などは総じて低調に推移しました。ここ数年大きく落ち込んでいた中国が大底からやや回復してきましたが、まだ本格的な回復にはいたっておりません。国内製造業についても大手製造業が今年は減収傾向で推移したため、在庫調整などによる下請け企業への発注が抑制され、国内企業の大半を占める中小企業の機械稼働率が上昇せず、当社の受注も低調に推移しました。

コスト面では、今期に入ってから従業員のインセンティブ向上を期して変動給与を導入したため人件費が上昇しました。生産効率が前月比で改善した場合に給与加算をしており、人件費が上昇しました。本年末に従業員向け譲渡制限付株式の株式報酬費用の計上が終了するため、第3、4四半期では会計上の費用計上が減少し、利益増加要因となります。これらを考慮して現状で把握しうる情報から業績の修正が必要となりましたので、2025年6月期第2四半期（中間期）、通期業績予想を修正いたします。

以上